

災害時に倒れない・燃えにくい家をつくろう！

阪神大震災では、約8割の方が、建物の倒壊等による圧迫により亡くなられています。
 ご自宅を耐震化することは、ご自身の命を守るだけでなく、建物の倒壊による細い道の閉塞の防止に繋がるなど、まちぐるみで耐震化を進めることが、安心安全な暮らしに繋がります。
 京都市では、様々な耐震化に関する助成制度があります。
 まずは、無料の診断から。

紫野学区ではさらに

自分の家はどのくらい地震に強い？	ご自宅の耐震診断を受けましょう。 ※1 京都市から耐震診断士が派遣されます。自宅の安全性を確認しましょう。	平成29年度は診断費無料！
しっかりと地震に強い家になりたい！	ご自宅を耐震改修しましょう。 ※1 木造住宅は最大60万円、京町家なら最大90万円の補助！	補助額が最大15~30万円 上乘せ！ (防火対策※2を併用した場合)
できるところから家を改善したい！	ご自宅の傷んだ部分を改善しましょう。 ※1 土台や柱の修繕、屋根の軽量化など、合計60万円の補助！(個別に最大20万円)	補助額が最大15万円 上乘せ！ (防火対策※2を併用した場合)

※1 昭和56年以前に建てられた木造住宅が対象
 ※2 防火対策とは、感震ブレーカーの設置や外壁等を火に強くする工事

【問合せ先】 京都市住宅供給公社 京(みやこ)安心すまいセンター
 TEL 075-744-1631 (9:30~17:00 水曜・祝日・年末年始は休み)



耐震シェルターの設置例

紫野学区防災まちづくり計画において、「防災の軸となる幹線道路」「学区内の防災上主要な道」と位置付けられている道の沿道の建物を耐震化する場合、補助額がさらに上乘せされます。



レトロでモダン そして安心 紫野 紫野学区防災まちづくり News

編集・発行：紫野学区防災まちづくり委員会（委員長：白瀧 雅章）

第7号

平成29年6月

防災まちづくり計画を策定しました！！

紫野学区は、平安京造営の起点と言われる船岡山の麓に位置する地域です。

雲林院や建勲神社、常盤井、やすらい祭など、紫野固有の歴史・文化を数多く有し、昔ながらの町割りや路地、まちかどのお地藏さん、西陣織のまちとして栄えた風情などがまちの中に暮らしの中に溶け込んでいます。

また、住民どうしの交流が盛んで、町内会活動や地藏盆、紫野まつりなど、昔ながらのコミュニティがしっかりと息づいています。

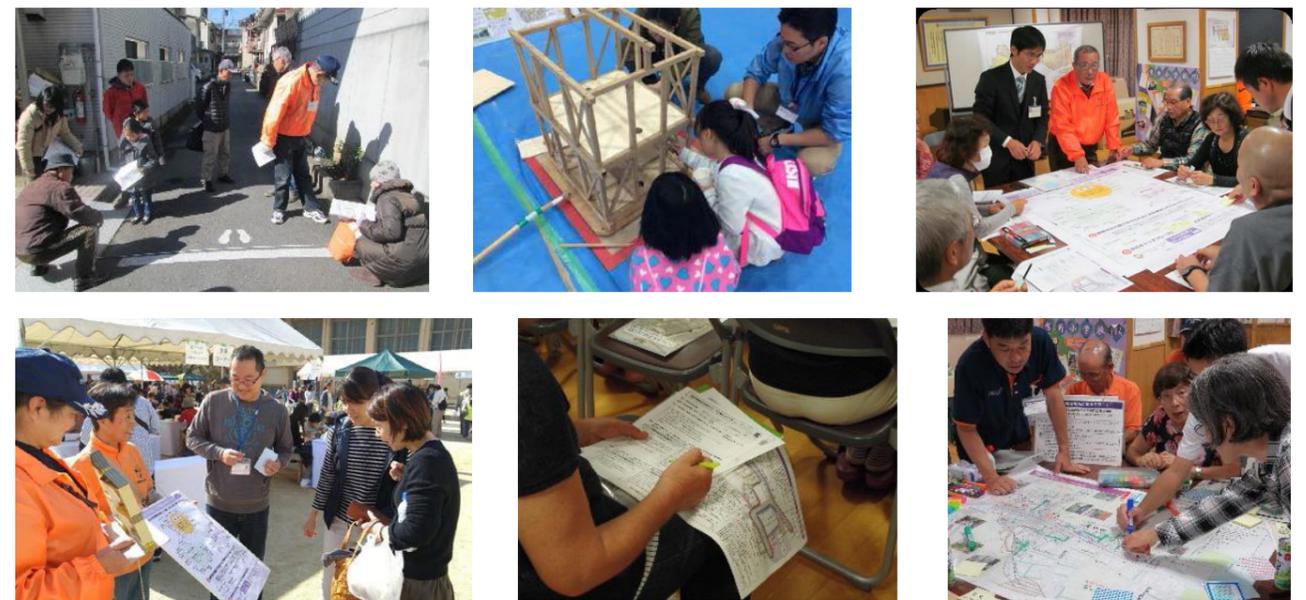
これらは全て紫野の魅力であり、多くの住民が誇りに感じています。

こうした魅力を有する一方で、幅員の狭い路地や袋路が多く、古い木造家屋が密集する地区もあることから、大地震が起きた際には、多くの建物が倒壊して人命が失われたり避難経路が塞がれる、また、火災によって広い範囲が延焼するなど、甚大な被害が予想されます。

こうしたことから、紫野学区では、災害に強く、安心・安全に住み続けられるまちを目指して、平成26年度から「防災まちづくり」に取り組んでいます。

『防災まちづくり』は、災害が起きる前に防災上の危険がある個所を改善することで、災害の未然防止と被害の軽減化を図ることを目的としています。紫野学区では、学区内全52箇町での「防災まちあるき」や、様々な機会を利用して住民と「意見交換」を行いながら、木造建築物の耐震改修や老朽化した空き家の除却、危険なブロック塀の改善など、今すぐに実施可能な対策に取り組んできました。

『防災まちづくり計画』は、災害から人命と財産を守り、将来にわたって安心・安全に住み続けられることができるよう、継続して「防災まちづくり」に取り組んでいくための考え方や目標、具体的な取組等を取りまとめたもので、平成29年5月に、京都市の認定を受けました。



全9回延べ約260名が参加したまちあるきをはじめ、DIGや意見交換会への参加など、たくさんのご協力をいただきありがとうございました。

紫野学区防災まちづくり計画の概要

～レトロでモダン そして安心 紫野～

紫野学区の魅力と課題

紫野学区の魅力（大切にしたいもの）

【歴史】

- ・船岡山、平安京起点、京の七野
- ・玄武神社、やすらい祭
- ・建勲神社、茅の輪くぐり
- ・今宮神社、御旅所
- ・大徳寺、雲林院、御朱印巡り
- ・常盤井、紫式部、小野篁
- ・船岡温泉、お地蔵さん 等

【コミュニティ】

- ・地藏盆
- ・紫野まつり、各種団体の連携
- ・町内会、住民同士の交流
- ・日常的な声掛け
- ・火の用心
- ・路地のある暮らし
- ・西陣織のコミュニティ 等

【町並み】

- ・静かで暮らしやすい
- ・京町家
- ・路地・建物とお地蔵さん
- ・伝統産業（西陣織の風情）
- ・新しい町並み
（幹線道路、基盤整備、建替え） 等



防災上の課題

『みち』

- ・京都市の幹線道路や学区内の主要な道が塞がれると、災害時の避難や救助に支障をきたす
- ・狭い路地や袋路では、建物等の倒壊により避難経路が塞がれる
- ・路地に置かれた物が障害になり、災害時の避難の妨げとなる

『いえ』

- ・古い木造家屋が地震時に倒壊し、路地が塞がれて避難や救助に支障をきたす
- ・木造家屋が密集する地区では、火災が燃え広がる恐れがある
- ・適正に管理されていない空き家がある
- ・民泊はコミュニティの面でも不安がある

『まち』

- ・狭い路地に面する狭小な宅地では、建替えが進まず老朽化が進んでいる
- ・狭い路地や狭小宅地が集中する地域は、個々の対策では防災性の向上が難しい
- ・オープンスペースが少なく、火災が燃え広がる恐れがある

『コミュニティ』

- ・災害時に迅速に行動するため、地域で日頃から情報交換し、共有することが必要
- ・防災まちづくりの取組を進めるため、お寺や事業所等とのつながりを活かすことが必要
- ・マンション固有の課題への対応が必要



防災まちづくりの目標

目指す将来像

レトロでモダン そして安心 紫野

紫野学区では、長い年月の中で培われた歴史的背景を土台としつつ、安全な避難経路の確保や建物の防災性の向上など基本的な取組を推進していくとともに、現代的な技術や新しい発想、新しい視点などを柔軟に取り入れ、いつまでも安心して暮らすことのできるまちをみんなで協力しながらつくっていくことを防災まちづくり計画の目標とします。

防災まちづくりの方針

みち

- 【方針1】 広域的な災害活動を支える骨格となる道の防災性を高める
- 【方針2】 住民の避難や災害活動を支える学区内の主要な道の防災性を高める
- 【方針3】 主要な道に安全に避難できるよう路地の防災性を高める

いえ

- 【方針1】 災害時に倒れない・燃えにくい家をつくる
- 【方針2】 地域が連携して空き家対策に取り組む

まち

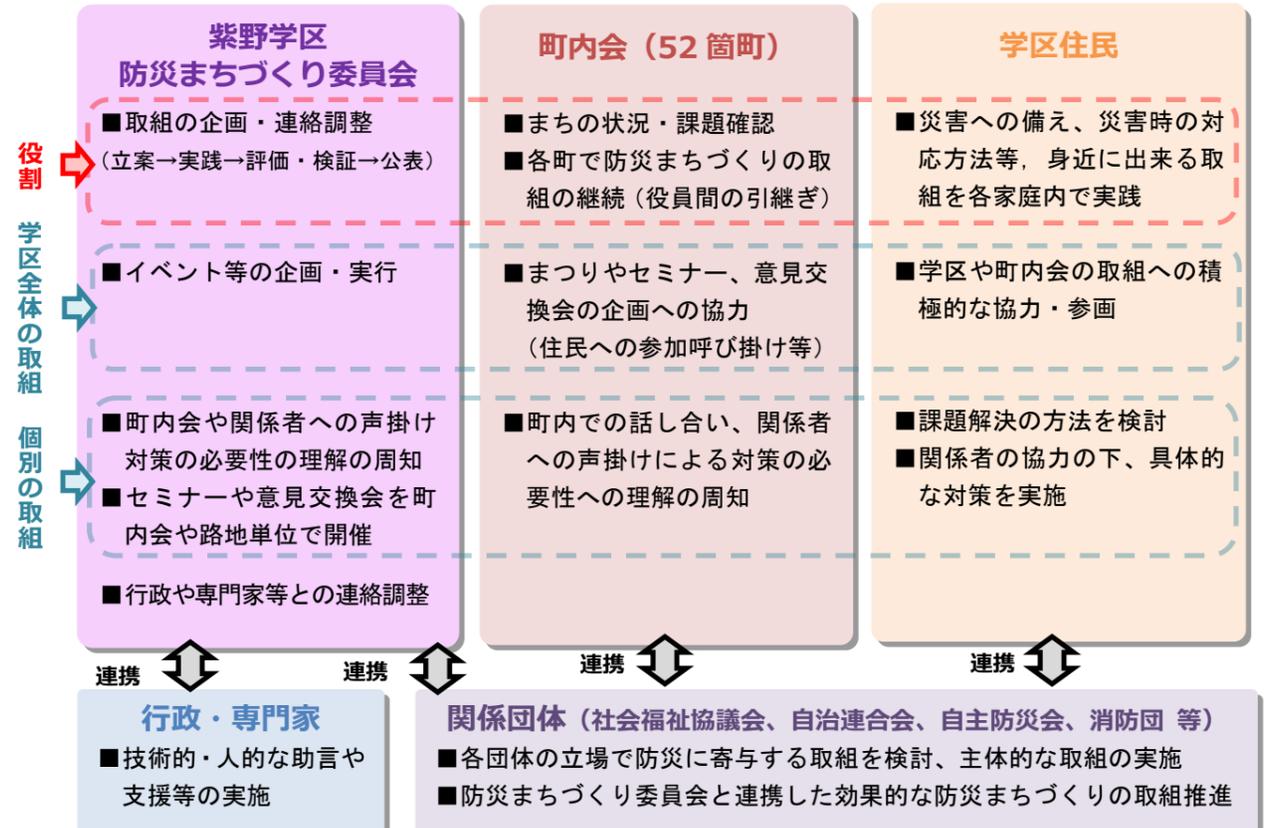
- 【方針1】 紫野の風情を守りつつ路地の防災性を高める
- 【方針2】 災害時に役立つ身近なオープンスペース（広場空間）をつくる
- 【方針3】 路地や街区単位で一体的に防災対策に取り組む

コミュニティ

- 【方針1】 防災に関する意識を高め、地域の力によって身近な防災性を高める
- 【方針2】 地域が連携するため、コミュニティをしっかりと築く

取組体制

・「紫野学区防災まちづくり委員会」を中心に学区住民、関係団体等で連携・協力して取組んでいきます。





レトロでモダン そして安心 紫野 紫野学区防災まちづくり News

編集・発行：紫野学区防災まちづくり委員会（委員長：白瀧 雅章）

第 8 号

平成 29 年 11 月

町内防災地図を更新しました！！

紫野学区では、平成 29 年 3 月に「紫野学区防災まちづくり計画」を策定し、災害から人命と財産を守り、将来にわたって安心・安全に住み続けられることができるよう、継続して実施する防災まちづくりの取組をとりまとめ、今年度から具体的な取組を推進しています。

この計画に基づき、6 月から 7 月に掛けて、各町の防災地図を更新しましたので、その取組を報告します。

<町内の消火器の点検>

消火器には有効期間が定められています。有効期間が過ぎていると、いざという時に正常に作動しない場合があります。

そこで、各町の防災部長の皆様方に、町内のどこに消火器が設置されているか、消火器が期限切れになっていないか、点検していただきました。

<地域集合場所の点検>

地域集合場所は、災害時に町内会住民が集まり、安否確認や救助活動などを行う場所で、町内会ごとに定めているものです。

そこで、各町の防災部長の皆様方に、広さ、町内各所からの集まりやすさ、周囲に危険なものがないかなどの観点から、地域集合場所を点検していただきました。

<空き家の確認>

空き家は、コミュニティの低下や景観の阻害、犯罪のおそれだけでなく、外壁や屋根などの家の痛みが気付くにくいと、老朽化していても放置されやすく、地震時等の災害時には倒壊のおそれがあります。

そこで、各町の防災部長の皆様方に、町内のどこに空き家があるか確認していただきました。

まちの改善も少しずつ、着実に進んでいます！！

平成 27 年 1 月から平成 28 年 1 月に掛けて、全 9 回延べ約 260 名の方に参加いただいて実施した「防災まちあるき」では、紫野学区にも、たくさんの防災上の課題があることが見つかりました。防災まちづくり委員会では、まちの改善に向けて取組を進めてきましたが、その成果として、関係者の皆様方の協力を得て、少しずつ改善が進んでいますので、写真で紹介します。

実際に改善されるまでは、成果が目に見えにくい取組ではありますが、今後とも粘り強く改善に向けて取り組んでいきますので、袋路における避難経路の確保や古くなったブロック塀など、防災上気になるところがありましたら、防災まちづくり委員会までご連絡ください。



東船岡南町にあった傷んだ煙突が撤去されました。（写真は当時の様子）



築山南町の名所「紫式部の鏡」の奥の空き家が解体されました。



（改善前）

東御所田町の空き家が解体されました。



（改善後）

↓↓↓↓ 町内防災地図の更新を活かして、次のステップへ！！ ↓↓↓↓

地域集合場所の表示板を更新します！！

町内防災地図の更新に合わせて、防災部長に地域集合場所の安全性等を確認していただいたところですが、今年度は、日頃から災害時の行動イメージを意識していただくため、地域集合場所に表示板を設置する予定をしています。設置に当たりましては町内の皆様の協力をお願いします。



7班で防災まちあるきを実施します！！

町内防災地図に記載されている事項を、町内会のみんなで共有し、いざという時に備えるため、7班を対象に、防災まちあるき&災害図上訓練（DIG）を実施します。

この企画では、町内防災地図を片手に、空き家や消火器の位置、地域集合場所の再確認を行うほか、最近、紫野学区でも増えている民泊の調査、袋路や古くなったブロック塀などまちの防災上課題のある個所などを、確認しながら歩きます。その後、みんなで大きなサイズの地図に、まちあるきの結果を書き込み、地震時の被害を少なくするために、どのような対策をすればよいか、みんなで出来ることを考えます。

対象町：昭和町、藤ノ森元町、

藤ノ森東南町、藤ノ森仲町、
藤ノ森西南町、山元南町

日程：平成29年11月25日（土）
午前9時から

場所：各町の地域集合場所に9時に集合
解散は、12時頃に紫野会館



寒い冬は火災が増えます!! 身の回りを振り返りましょう!!

平成28年度の京都市における火災件数は、256件。

火災原因は1位「たばこ」2位「放火」3位「ガスこんろ」となっています。

これから寒い冬を迎え、暖房器具を使われるご家庭が多くなる**11月と12月は、例年、火災発生のピーク月**になります。

住民の皆さま一人ひとりの「ストーブをつけたまま寝ない」「燃えやすい物を庭先、玄関先に置かない」などのほんの少しの注意や用心が火災の防止に繋がります。

火災発生件数（各年度10月23日現在）			
北区	29年度	25件	28年度 20件
		(死者3名)	(死者0名)
京都市	29年度	206件	28年度 215件
		(死者12名)	(死者10名)

北区の火災件数、死者数が増えています。

北消防署 大徳寺出張所

火の消し忘れなど、ヒヤッとした経験はありませんか？ 今一度、身の回りを振り返ってみましょう。



レトロでモダン そして安心 紫野 紫野学区防災まちづくり News

編集・発行：紫野学区防災まちづくり委員会（委員長：白瀧 雅章）

第9号

平成30年1月

防災まちあるき・災害図上訓練を実施しました!!

平成29年6月から7月にかけて更新した「各町の防災地図」の内容について、住民のみなさんで共有し、自分のまちの防災上の課題を再確認するため、まちあるきを実施しました。

今回は、「7班（昭和町、藤ノ森元町、藤ノ森東南町、藤ノ森西南町、藤ノ森仲町、山元南町）」を対象として、3グループに分かれて実施し、計22名の方が参加されました。

まちあるきのチェックポイント

- 避難に支障となる物が路地上にないか
- 袋路から安全に避難できるか
- 倒れそうな建物やブロック塀
- 空き家の位置、管理状態
- 災害時要配慮者
- 消火器の位置、状態
- 民泊・ゲストハウス



各町の地域集合場所に集まり、まちあるきの目的と内容を確認

地域集合場所が住民に周知されていない



袋路の奥が塞がっていて避難することができない

古いブロック塀が倒れると路地が塞がれて避難できない

古くなって危険な状態の空き家が多い

民泊が増えてきている



消火器の使用期限が切れている

路地上に植木や自転車等が無造作に置かれている

《表面の続き 災害図上訓練 (DIG) の様子です》

まちあるきで確認した情報を振り返るとともに、災害が起きた状況を想定して実際にどのように取り組むべきかをみんなで考え、共有するため、災害図上訓練 (DIG) を実施しました。

【災害図上訓練 (DIG) の流れ】

Step 1	まちの状況を確認しよう！ ～まちあるきで得た情報の確認～
Step 2	地域集合場所に集まろう！ ～自宅から地域集合場所までの避難経路の確認～
Step 3	安否確認して、初期消火、要配慮者を助けに行こう！ ～地域集合場所の意義～
Step 4	紫野小学校にみんなで避難しよう！ ～避難経路の確認、避難所運営について～



ご自身の町の地域集合場所、ご存じですか!?

7班で防災まちあるきを実施したところ、地震時等に町内の住民が集まる「地域集合場所」の位置が変わっていたり、場所が十分に周知されていなかったりという事例がありました。地域集合場所は、安否確認や避難に支援を要する方の救助など、住民同士が助け合うために集まる大事な場所です。

まずは、ご自身の町の地域集合場所を改めて確認し、町内で情報共有しましょう。また、地域集合場所への避難経路の倒壊しそうなブロック塀、空き家などにも注意し、わが町の点検をしてみましょう。



↑近日中に配布します。設置のご協力をお願いします。

防災まちづくりサポーター 募集中!!

皆さん、私たちのまちを防災の目線で点検する「防災まちあるき」をしたり、防災に関する啓発活動をしたり…。災害に強く安心して暮らせる「レトロモダン そして安心 紫野」を目指して、私たちと一緒に活動しませんか？ 少し話を聞いてみたいという方は、お近くの本部役員又は防災まちづくり委員会の白瀧(TEL075-441-7601 携帯 090-8539-0152)までご連絡ください。お待ちしております!!